

## 国家試験委員会活動報告書

委員長名 坪川 トモ子

<b>【委員会名】</b> 国家試験委員会	
<b>【メンバー】</b> 板垣昭代(獨協医科大学看護学部) ¥大谷喜美江(日本赤十字豊田看護大学看護学部) ○大西真由美(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科) 齋藤公彦(福山平成大学看護学部) ◎坪川トモ子(新潟青陵大学) 播本雅津子(名寄市立大学保健福祉学部)  50音順、◎委員長、○副委員長、¥会計担当、*会員校以外の委員、( )所属名	
<b>【活動方針】</b> 1. 毎年の保健師国家試験出題内容に関する意見をとりまとめ、厚生労働省に意見書を提出する。 2. 保健師国家試験の質向上に向け、現行出題基準の点検・評価を行う。 3. 国家試験問題作成のための研修会を実施し、教員の問題作成、クリティーク、ブラッシュアップできる力を育成する。	
<b>2020(令和2)年度</b>	
<b>達成目標</b>	1. Web調査による第107回保健師国家試験に係る問題内容調査を会員校の協力を得て、国家試験問題の適正化改善に寄与する。 2. 養成校別保健師国家試験合格率の推移等など国家試験対策の基礎資料を蓄積していく。 3. 保健師国家試験問題出題基準見直しに関する意見書を厚生労働省に提出する。 4. ブロックからの国家試験に関する研修依頼に随時対応し、会員校教員の問題作成の力量アップを図る。
<b>活動報告</b>	1. 第107回保健師国家試験の出題内容に関する会員校調査実施状況 ・参加校は103校(47.0%)であり(前回比 12%の上昇)、複数会員校のチームによる参加は2チーム(東北地区北ブロック11校、三育学院大学と淑徳大学とのチーム)あり多くの意見が寄せられた。受験生対象の受験環境調査も1062人で前年比369人の増であった。 ・分析結果を踏まえ、厚生労働省看護課長に要望書を提出した(2月)。会員校メルマガと全保教HPへのアップにより会員校に要望内容を還元した。 2. 養成校種別の合格率は算出しなかった。 3. 医道審議会保健師助産師看護師分科会 保健師助産師看護師国家試験制度改善検討部会の委員である会長に委員会として協力した。 4. ①北海道東北ブロックが主催する国家試験に関する研修会に協力した(3月)。 ②厚生労働省看護課長に提出した要望書に記載した以外の問題分析結果をまとめ、教育への活用と問題作成力の向上のための資料として会員校へ配信した(3月)。